

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立久米中学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>夢や希望を持ち、学び合い、未来に生きる力を育む生徒の育成 (めざす生徒像)</p> <p>将来への夢を持ち、実現させようとする生徒 ルールの大切さを知り、実行できる生徒 人権を尊重し、共に支え合い、高めあう生徒 身だしなみを整え、あいさつやそうじができて、時間を守る生徒</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>キャリア教育の充実 心が通う生徒指導の充実 わかる授業、学び合う授業の創造と学力の充実 人権教育の充実 健康・安全教育の充実 心を育てる家庭・地域との連携</p>
--	---

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語A、理科は県平均に比べて正答率が高い。 国語B、数学A、数学Bは県平均に比べて正答率がかなり高い。 国語については、状況に応じて資料を活用し聞き手を意識して話す力は身につけているが、目的に応じて文章を要約したり適切な語句を用いて表現したりする力に課題がある。(例 聞き手を意識し分かりやすい語句を選択して話す 本校79.6%(全国65.0%) 目的に応じて文章を要約する 本校72.2%(全国82.6%)) 数学については、数量や図形についての知識・理解や資料活用力は身につけているが、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することに課題がある。(例 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している 本校88.9%(全国55.4%) 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができる 本校37.0%(全国43.1%)) 理科については、自然現象についての基本的な知識・理解は身につけているが、実験結果を正しく文章で表現することに課題がある。(例 天気図から風力を読み取る 本校92.6%(全国77.9%) 見出した問題を基に適切な課題を設定することができる 本校50.0%(全国57.3%))</p> <p>県</p> <p>国語、社会、理科の正答率は県平均と比べて高く、数学はかなり高い。 全教科を通じて基礎・発展共に昨年度に比べて正答率は高くなっている。 思考力、表現力は身につけているが、基礎的な知識・理解に課題がある。(例 数学的な考え方 本校68.0%(県59.2%) 漢字のよみ 本校89.5%(県92.6%))</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>家庭での学習時間が1時間以上の割合が県平均に比べてかなり高く、昨年度より高い。 全く家庭学習をしない割合は県平均に比べて低いが0ではない。 家で学校の授業の復習をしている割合が県平均に比べてかなり高い。 学級やグループの中で、自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの活動に取り組んだ割合が、県平均に比べてかなり高い。 テレビ等の視聴時間が3時間以上の割合は県平均より低いが、1時間以内の割合も県平均より低く、昨年度より低い。 平日にテレビゲームをする時間が1時間以内の割合は県平均に比べてかなり高いが、4時間以上の生徒も0ではない。 平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以内の割合は県平均並みだが、3時間以上の割合は県平均より低い。 読書時間が30分以内の割合が県平均より高く、30分以上の割合は県平均より低い。 学校図書館や地域の図書館を利用する割合は県平均より高いが、昨年度より低い。 地域の行事に参加している生徒の割合が県平均に比べてかなり高い。 近所の人に出会った時あいさつをしている生徒の割合は県平均よりかなり高く、昨年度より高い。 家の人が授業参観や運動会などの学校行事に来る割合が県平均に比べてかなり高い。 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある生徒の割合が県平均に比べて高い。</p>
---	--

<p>成果と課題</p> <p>協同学習の導入により、徐々にではあるが教室に「学び」が増え、どの生徒も答えを導き出すことができるようになっている。 ノーチャイムで生活することにより、時間の管理を自分でする習慣が身につく授業に自律的に取組む生徒が増えてきている。 朝読書の定着により、学年が進むごとに読書に親しむ生徒が増えたと同時に落ち着いた学習環境が生まれている(読書時間 1日1時間以上 1年生12.0% 3年生22.2%)が、読書が好きな生徒は県平均に達していない。(読書が好き 1年生本校68.0%(県74.6%) 3年生本校66.6%(県69.7%)) 根拠を明らかにして自分の考えを筋道を立てて表現することが苦手な生徒が多い。 基礎的な知識・理解に課題がある生徒がいる。 テレビの視聴、テレビゲーム、携帯電話・スマートフォンを使つての通話、インターネット等に対する指導を継続して行う必要がある。 家庭学習の指導等に力を入れる必要がある。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>毎日の授業の中でどの教科でも協同学習による「学び合い」の時間を設ける。 どの教科でも資料を活用しながら自分の考えを筋道を立てて書いたり表現したりする活動を多く取り入れる。 どの教科でも授業の終わりに学習のまとめとして授業内容を自分の言葉でまとめる振り返りを行う。 どの教科でもドリル的学習を取り入れ基本事項の徹底を行う。 基礎・基本の定着のための補足的学習を放課後、長期休業中、定期テスト前に行う。 中学校区の各小学校と連携してノーマディアに取組む。 家庭学習時間確保のため学級委員会の活動を活性化し、自主学習ノートの提出率を向上させる。 図書委員会を中心に本の紹介等を行い、読書に興味を持つ生徒を増やす。 学力・学習状況調査、学力到達度確認テスト、たしかめテストの問題を授業、放課後学習、家庭学習で活用する。</p>
---	---

<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>協同学習を推進するために授業研究中心の校内研修を行い、全員が授業公開をする。(2月末までに) 学級委員会の活動として自主学習ノート提出強化期間を設ける。(定期テストごと) 中学校区の小学校と連携してノーマディアの取組みを行う。(定期テストごと) 生徒へのアンケートの実施(定期テストごと) 上記の結果を受けて改善方法の見直しを図る。</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>全教科の平均正答率が県平均を上回る。 家庭学習時間確保のため自主学習ノートの提出率を全クラス80%以上にする。 定期テスト前の家庭学習時間100分以上の生徒を90%以上にする。</p>
--	---